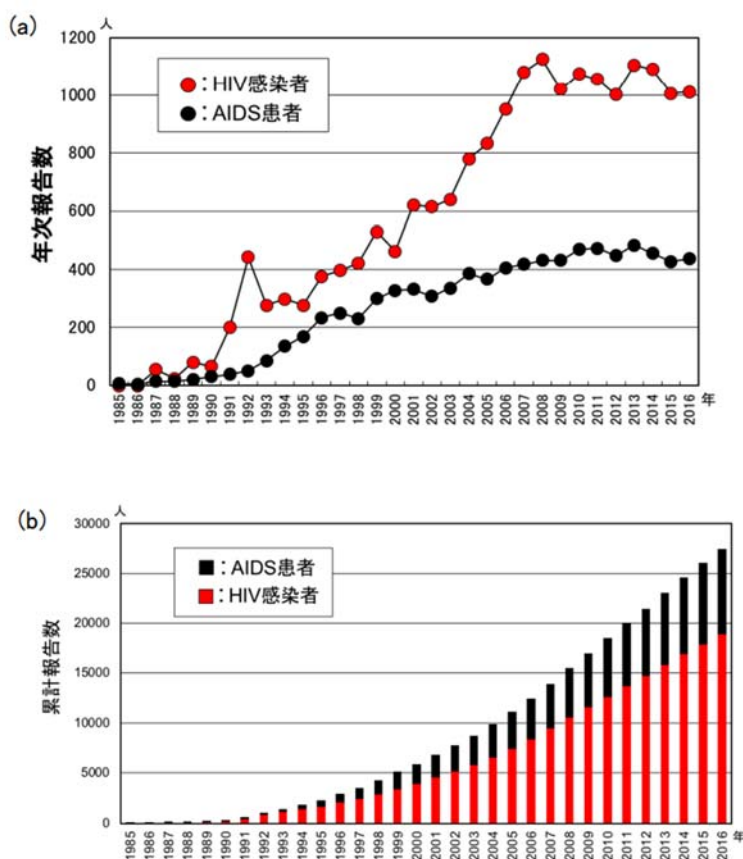


### 高齢の HIV 陽性者・AIDS の増加

近年 HIV 感染症に対する治療薬や治療方法の進歩により、感染者の予後は飛躍的によくなりました。国連合同エイズ計画（UNAIDS）によれば 2016 年の世界の新規 HIV 感染者数はいまだ 180 万人を数えるものの徐々に減り始めており、HIV 新規感染が 2010 年当時より 40 万人減少し、死亡者数は年間 100 万人ですが、2010 年よりは 50 万人も減っています。そのうち男性同性間の性行為による感染が 735 人(72.7%)、エイズ発症が 241 人(55.1%)。全体の 67%が男性同性間と報告しています<sup>1)</sup>。

日本も最近 10 年間は新規感染者数が横ばいの状況にあるとはいえ、毎年 1500 人前後の新規感染者及び AIDS 患者が発生しており、2016 年には累計で 2 万 7 千人を突破しました。2016 年の新規報告数は 1448 件（新規 HIV 感染者が 1011 例、新規エイズ患者は 437 例）となり、日本人国籍男性の同性間性的接触による感染が約 6 割でした。調査を開始してからの累計報告数（凝固因子製剤による感染例を除く）は 2.7 万件を超えました<sup>1)</sup>。



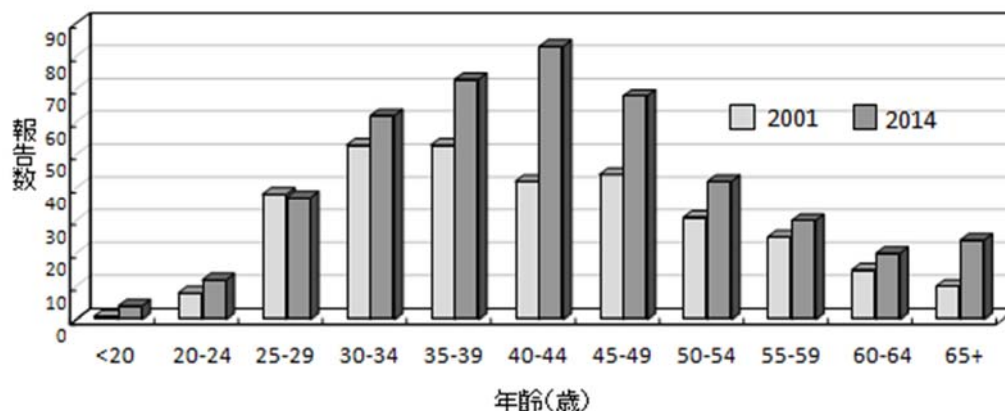
AIDS（後天性免疫不全症候群）とは NIID 国立感染症研究所 1) より転載

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/400-aids-intro.html>

抗 HIV 療法 (antiretroviral therapy : ART) の進歩により、HIV 感染者の予後は明らかに改善し、20 歳で治療を開始した人は非 HIV 感染者と同じ余命を全うできるという報告もされています<sup>2)</sup>。感染症の制御も進歩し予後の改善とともに高齢化が進んでいます。2013

年に厚生労働省に報告された HIV 感染者/AIDS 患者の中で、50 歳以上の占める割合は 30%弱に及ぶことがわかりました<sup>3)</sup>。

このような HIV 感染患者の予後改善とともに、高齢者 HIV 初感染例の増加も報告されています<sup>4)</sup>。



新規 AIDS 患者報告数の 2001 と 2014 年の比較 文献 4) より転載

2001 年に比較して 2014 年は明らかに新規 AIDS 患者が高齢者にシフトしているのが解ります。この原因は何でしょう？バイアグラなどの ED 治療薬の効果と考える向きもあります<sup>5)</sup>。

高齢者の HIV 感染症の特徴としてはすでに AIDS の状態で HIV 感染が判明する、いわゆるいきなり AIDS が多いことが言われています。

本邦における 2015 (平成 27) 年の HIV ならびに AIDS の新規報告件数全体の中で、AIDS の割合は 30.3% (434/1434 名) であったのに対し、70 歳以上の高齢者においては 55% (11/20 名) と高い割合でした。高齢者は若年者と比較して T 細胞の数と機能が低下しているため HIV 感染が加わると AIDS に進行しやすいとされていることや、HIV 検査の受診者が少ないこと、医師が高齢者ということで HIV 感染を除外していることなどが影響していると考えられています<sup>6)</sup>。

高齢発症の AIDS が稀ではないことに留意しながら診療する必要があります。

また HIV 感染症がコントロールされても、高齢化して施設入所になる場合、HIV 陽性ということで入所や入院が拒否されることが多く、75.5%が困難であったという報告もあります<sup>7)</sup>。血液曝露による感染確率が B 型肝炎 19~37%、C 型肝炎 1.9%、に比べて HIV0.32% と感染リスクは低く、偏見による入所・入院困難はあってはならないことだと思います。

平成 30 年 12 月 7 日

菊地中央病院 中川義久

参考文献

1) AIDS (後天性免疫不全症候群) とは NIID 国立感染症研究所

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/400-aids-intro.html>

- 2) 小川 拓：性感染症を HIV 感染症の早期診断に結び付けるために．日内会誌 2018；107；2269－2275．
- 3) 味澤 篤：高齢化する HIV 感染者．日本医事新報 2015；4746；45．
- 4) 抗 HIV 薬治療下の HIV 潜伏感染症：致死的病態について—HIV と NADCs．IASR 2015；36；170－171．
- 5) 岸田 直樹：高齢者の風邪の診かた．医学会新聞 2018；3300；
- 6) 高崎 俊和ら：多発充実性陰影を呈した高齢者の AIDS 関連ニューモシスチス肺炎の 1 例．気管支学 2018；40；139－143．
- 7) 横田 和久ら：HIV 感染者 2 症例の長期療養型病院へ転院に至る経過と問題点の検討．プライマリケア 2018；41；65－67．